

ゼロハイム博士の 光熱費コンサルティング



さま邸結果報告書①

お客さま邸データのまとめ

お客さま邸について



PV(太陽光発電システム) 搭載容量	4 kW
地域	兵庫県
暖房	エアコンによる個別間欠暖房
冷房	エアコンによる個別間欠冷房
年間光熱費	¥11975 (¥38014)

※()内は、PV搭載容量別での平均光熱費をあらわします。

月別の光熱費

07年1月～07年12月

単位(円)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
買電代	13829	10089	6766	7388	6433	4457	5536	7218	5340	4643	5284	6876	83859
PV搭載容量別 平均買電代	15112	13917	12267	10527	7722	6282	6825	7196	7507	7273	8327	10205	113158
売電代	-4418	-5563	-5324	-7325	-8758	-7484	-4269	-6444	-5701	-5549	-6029	-5020	-71884
PV搭載容量別 平均売電代	-4085	-4236	-5265	-7437	-9056	-8459	-7144	-7016	-6545	-5956	-5442	-4502	-75144
光熱費	9411	4526	1442	63	-2325	-3027	1267	774	-361	-906	-745	1856	11975
PV搭載容量別 平均光熱費	11026	9681	7002	3090	-1334	-2177	-319	180	962	1317	2884	5703	38014

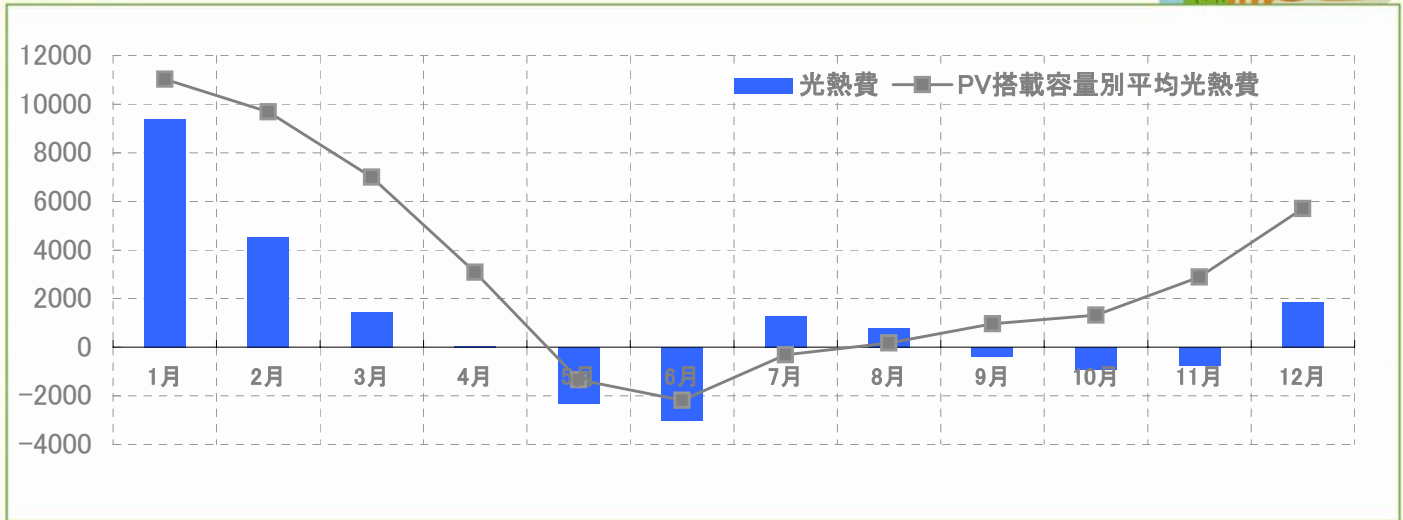
※PV搭載容量別平均は、2003年・2004年にセキスイハイムが調査したデータをベースに算出しています。
オーナーズクラブ入会者の平均値とは異なります。ご了承ください。



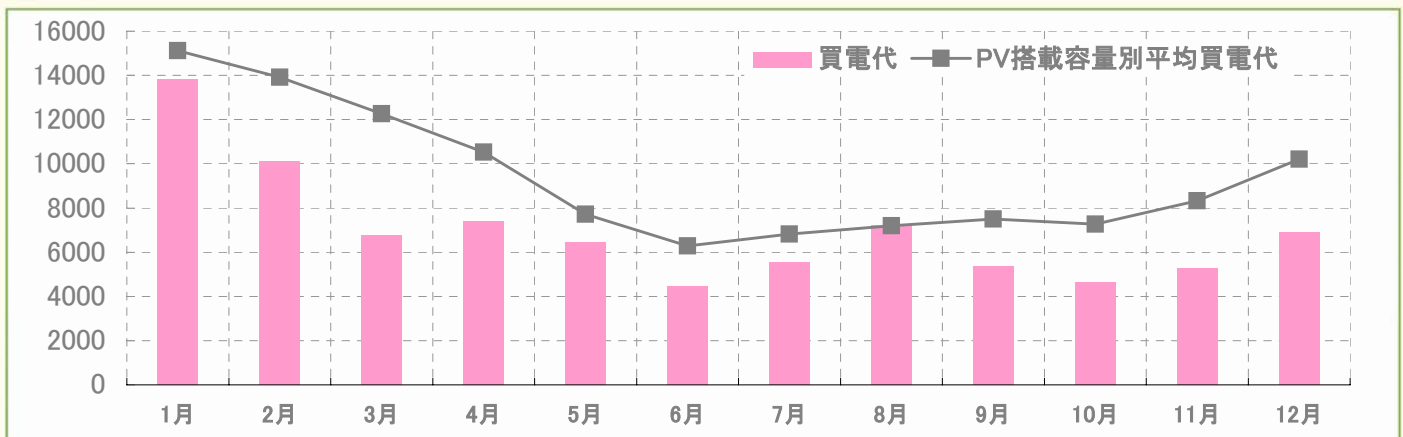
月別の光熱費グラフ



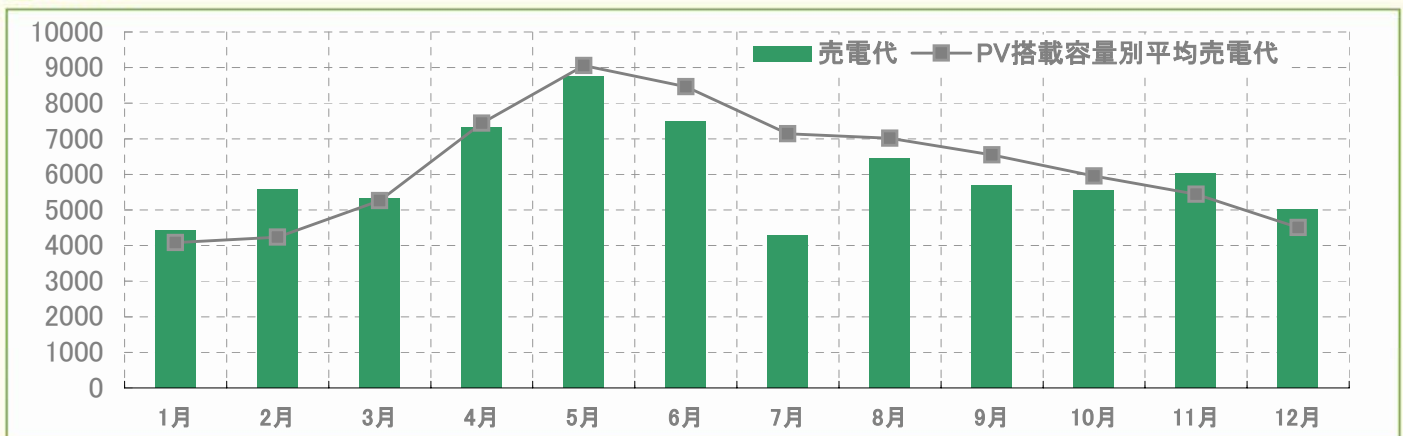
光熱費



買電代



売電代



※PV搭載容量別平均は、2003年・2004年にセキスイハイムが調査したデータをベースに算出しています。オーナーズクラブ入会者の平均値とは異なります。ご了承ください。



部門別光熱費つうしんぼ

ゼロハイム博士から分析にあたってのコメント

7月の売電代が低くなっていますが、気象庁のデータ(大阪)から、日射量が少なかったことが原因です。その他の月の売電代からは、機器のトラブルなどは見受けられません。

家電照明	冷房	暖房
<p>素晴らしい省エネです！</p> <p>1 2 3 4 5 大変良い</p> <p>冷暖房を使わないとする春(6月)・秋(10、11月)の買電代が、平均より非常に低く抑えられています。このことから、家電照明においては大変よく省エネできていることがわかります。ただし、同じ春季でも、6月に比べ4月(・5月)は買電代がやや高くなっています。電力モニターのデータより、特に4月の消費電力をチェックしてみてください。増加原因の手がかりがあると思います。</p>	<p>07年は猛暑。08年はもっと改善するはず！</p> <p>1 2 3 4 5 ふつう</p> <p>今年は猛暑だったため、どのお客様も例年値より買電代が増加(場合によっては激増)しています。したがって、平均値との比較はあまり参考になりません。通信簿「3」も、参考程度にとらえてください(本来の省エネ実力はもっと上だと思われます)。2008年夏は、07年の買電代数値を下回ったかどうかで、毎月チェックしてみてください。</p>	<p>暖房の使い方が大変上手です。</p> <p>1 2 3 4 5 大変良い</p> <p>2月、12月の買電代は平均値より大幅に低く抑えられており、暖房の使い方によく気を配っていることがわかります。素晴らしい成果です。1月の買電代は、2・12月と比べるとかなり高くなっていますが、これは入居当初の特別値(入居し始めで、暖房をうまくコントロールできなかったため)であると判断しました。グランツーユーの断熱性を活かして、暖房時間と温度のコントロールレベルを上げれば、08年度冬はさらに前年を下回れると思います。</p>

光熱費グラフの読み取り方について

光熱費グラフがどのように分析されているかをご説明します。

1 売電代から、昼間の電力消費傾向を分析しています。

発電電力量から昼間自宅で消費した電力量(自己消費量)を差し引いたものが売電に回ります。だから、パネルの設置する向きや地域等に特別な条件がなければ、売電代は自己消費量の影響を大きく受けます。よって、売電代の比較にて昼間の電力消費傾向が分析できます。

2 夏(7~9月)のデータから、冷房の使用状況を分析しています。

冷房頻度の高いユーザーは、自己消費が増えることで売電は減少し(昼冷房時)、買電は増加する(朝夜冷房時)傾向があります。平均値との比較でその傾向を分析しています。

3 冬(12~3月)のデータから、暖房の使用状況を分析しています。

冬場も夏場と同様にして昼、夜の暖房特性を分析しています。(石油ファンヒーター等、非電気機器を併用されている場合は、その分をご自身で加味してご判断ください。)

4 春秋のデータから、家電照明の使用状況を分析しています。

通常(4・)5・6月、10・11月は、冷暖房の運転を行わないので、この時期の数値比較により、家電照明の特性を分析しています。

買電分・売電分・自己消費分の関係図



今後のアドバイス

08年の夏は、平年並みの天候であれば、07年より光熱費の改善が期待できます。前年の買電代を超えないよう、注意してみてください。さらに、電力モニターを活用いただき、消費電力が多かった(無駄があった)ところを改善していけば、光熱費ゼロが見えてくると思います。